

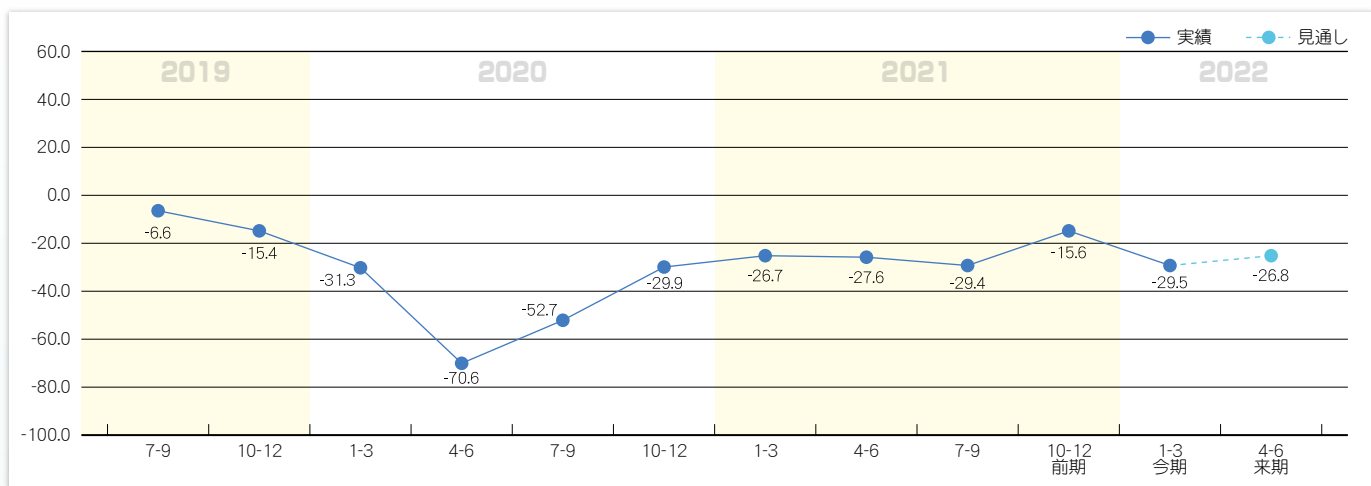
全業種

回答数339社

今期の業況D-Iは、前期比13.9ポイント低下の▲29.5。原油・原材料価格高騰やコロナ禍の影響により、厳しい状況が続いており、建設・不動産を除く全業種で低下した。来期の予想業況D-Iは2.7ポイント上昇の▲26.8。若干改善の見通しではあるが、ウクライナ情勢等の要因により、先行きの不透明感は増している。

前期実績 今期実績 来期見通し

業況D-Iの推移



主要D-Iの推移

(注)在庫/設備/人手はプラスになるほど過剰、マイナスになるほど不足。

● 実績 ● 見通し



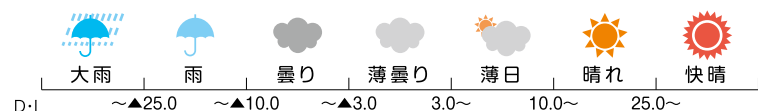
へきしん取引先景況調査とは

本調査は、地域および業種の景気実態および景気予測(景況)を把握するため、四半期ごとに当金庫の取引先企業様にアンケート調査を実施し、回答をいただいたものです。

調査概要

実施時期 2022年3月1日～7日
 対象企業 339社
 対象地域 西三河および尾張南部を中心とした当金庫の営業エリア

天気図の見方

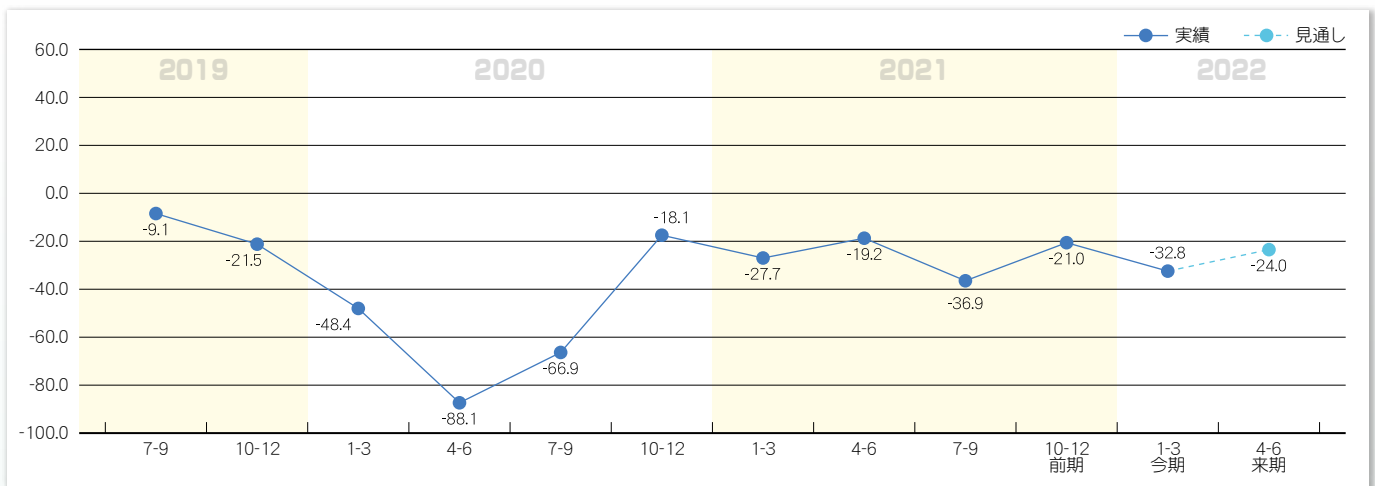


D-I(ディフュージョンインデックス)とは…業況(業界の景気)等を判断するための指数であり、(良いまたはやや良いと答えた割合)-(悪いまたはやや悪いと答えた割合)で求められます。

製造業

回答数125社

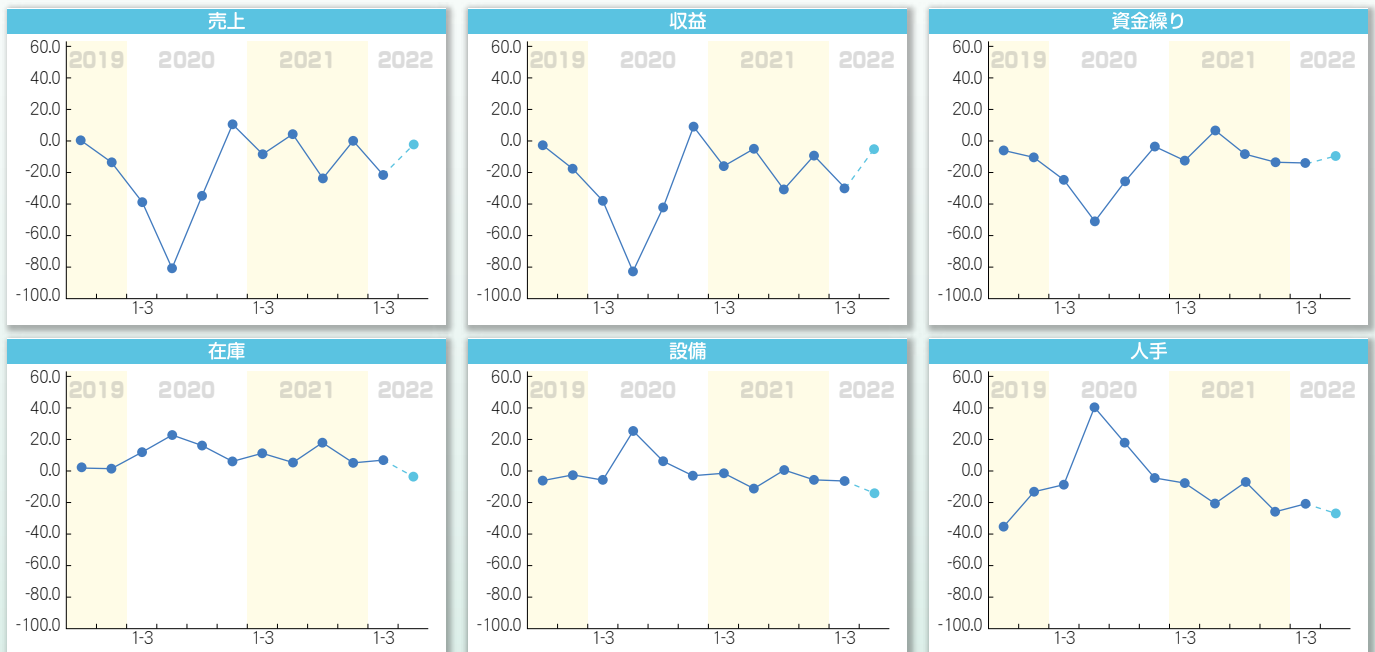
今期の業況D・Iは、前期比11.8ポイント低下の▲32.8。原油・原材料価格高騰、自動車の生産調整の影響により、悪化に転じた。来期の予想業況D・Iは8.8ポイント上昇の▲24.0。ウクライナ情勢に対する懸念の声が聞かれており、下振れする可能性もある。



主要D・Iの推移

(注)在庫/設備/人手はプラスになるほど過剰、マイナスになるほど不足。

● 実績 ● 見通し



調査員のコメント



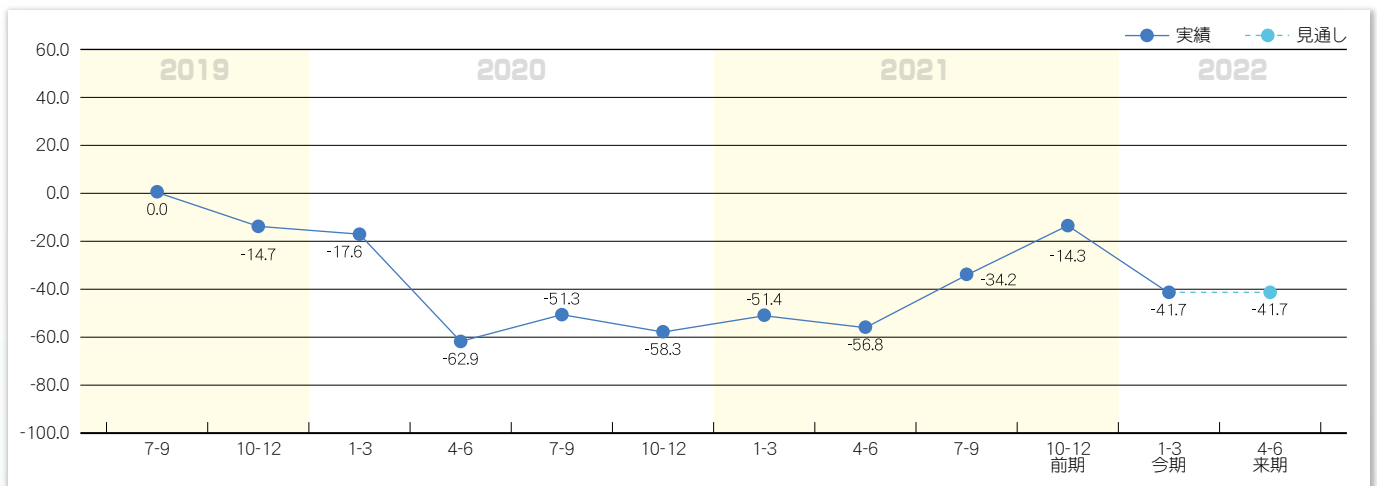
- 半導体不足の影響で引き続き受注が不安定。また、コロナ禍に加えウクライナ情勢による影響を懸念しており、今後の対策を検討中。(自動車部品製造)
- 各種イベントの中止・縮小により収益性に懸念はあるが、ビジネスモデルの変更により業績回復を図っている。(印刷)
- コロナ禍の影響は特になく、業績は好調。(プラスチック製品加工)
- ロシア向け車両の部品を一部製造しており、出荷停止等の影響を懸念。(自動車部品製造)



卸売業

回答数36社

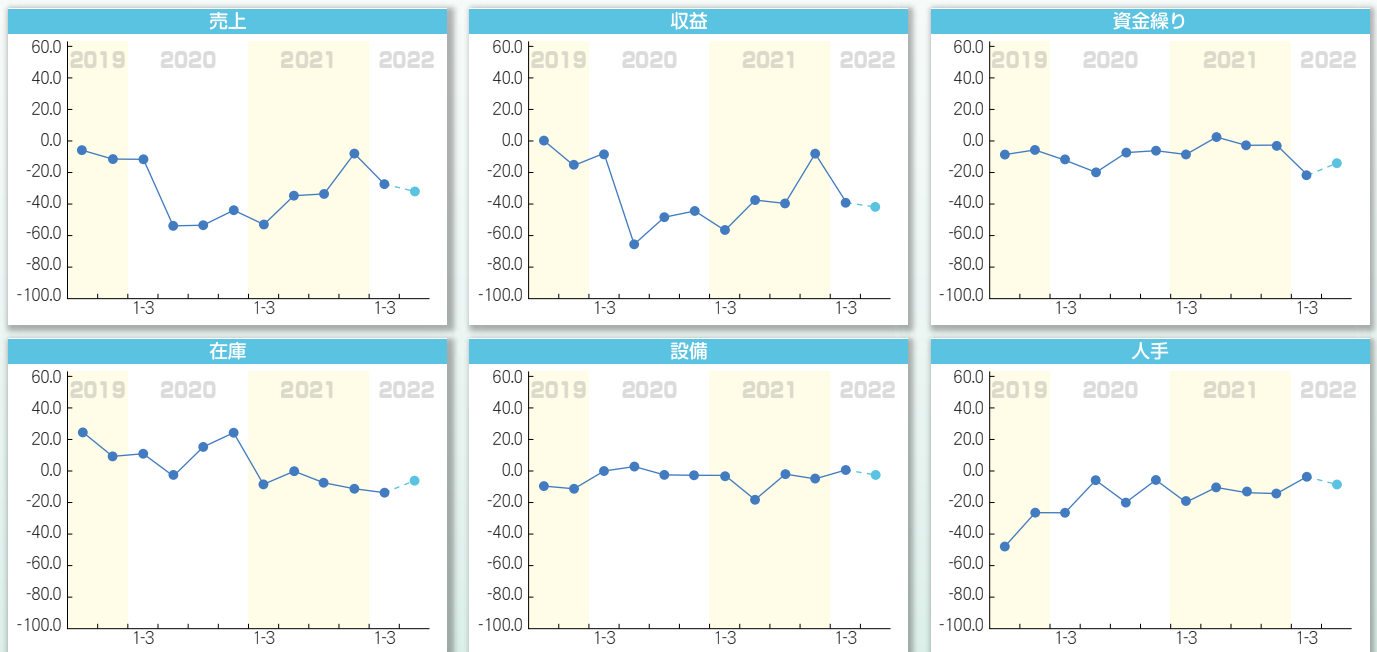
今期の業況D-Iは、前期比27.4ポイント低下の▲41.7。3期ぶりに大幅な悪化となった。原材料仕入価格高騰等により収益が圧迫されている企業が多い。来期の予想業況D-Iは▲41.7と、横ばいの見通し。予想売上D-Iは▲5.5と、来期も厳しい状況が続くことが見込まれる。



主要D-Iの推移

(注)在庫/設備/人手はプラスになるほど過剰、マイナスになるほど不足。

Legend: 実績 (Actual), 見通し (Outlook)



調査員のコメント



- コロナ禍の影響による受注減からは回復したものの、今後は原材料価格高騰への対応が課題。(鋼板卸売)
- 売上は変わらないが、ガソリン価格の値上がりにより収益が低下しており、今後値上げを行う予定。また、人手不足で仕事を断ることもあり、人材の確保が一番の課題である。(砕石卸売)
- 仕入価格の上昇をある程度は販売価格に転嫁できているが、以前に比べると厳しい状況。今後ウクライナ情勢の影響が出ることを懸念。(石油卸売)



小売業

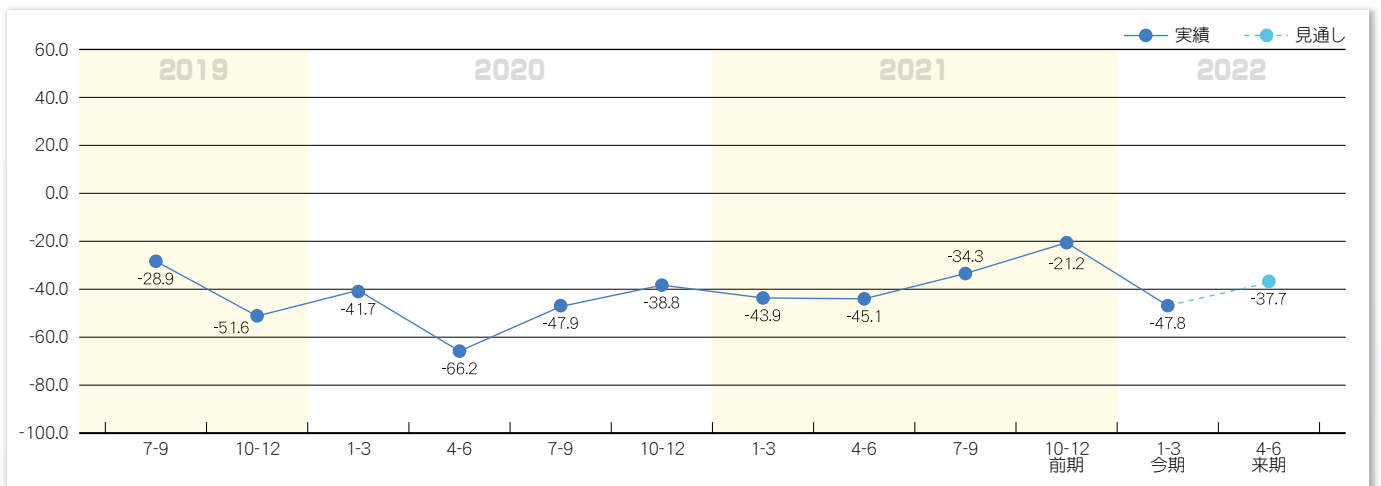
回答数69社

今期の業況D・Iは、前期比26.6ポイント低下の▲47.8。まん延防止等重点措置による客足の減少等により売上が伸び悩み、3期ぶりに大幅な悪化となった。来期の予想業況D・Iは10.1ポイント上昇の▲37.7。来期は売上回復が期待され、厳しい水準ながら改善の見通し。

業況D・Iの推移



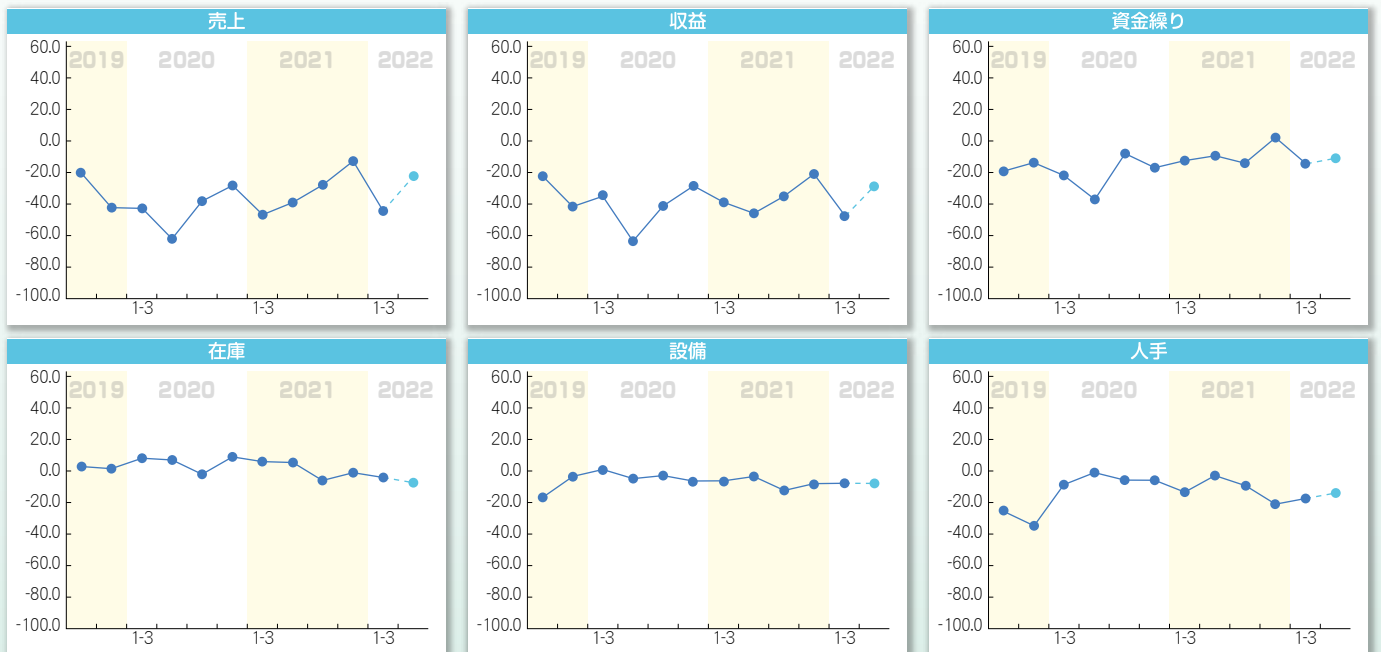
前期実績 今期実績 来期見通し



主要D・Iの推移

(注)在庫／設備／人手はプラスになるほど過剰、マイナスになるほど不足。

● 実績 ● 見通し



調査員のコメント



- 仕入価格の上昇は販売価格に転嫁できるものの、同業者間の競争もあり、利益の見通しは難しい。(ガソリンスタンド)
- 輸出売上は増加しているが、国内向け売上は苦戦している。(中古車販売)
- 仕入価格の上昇のほか、決済手数料の増加により収益が減少している。(呉服店)



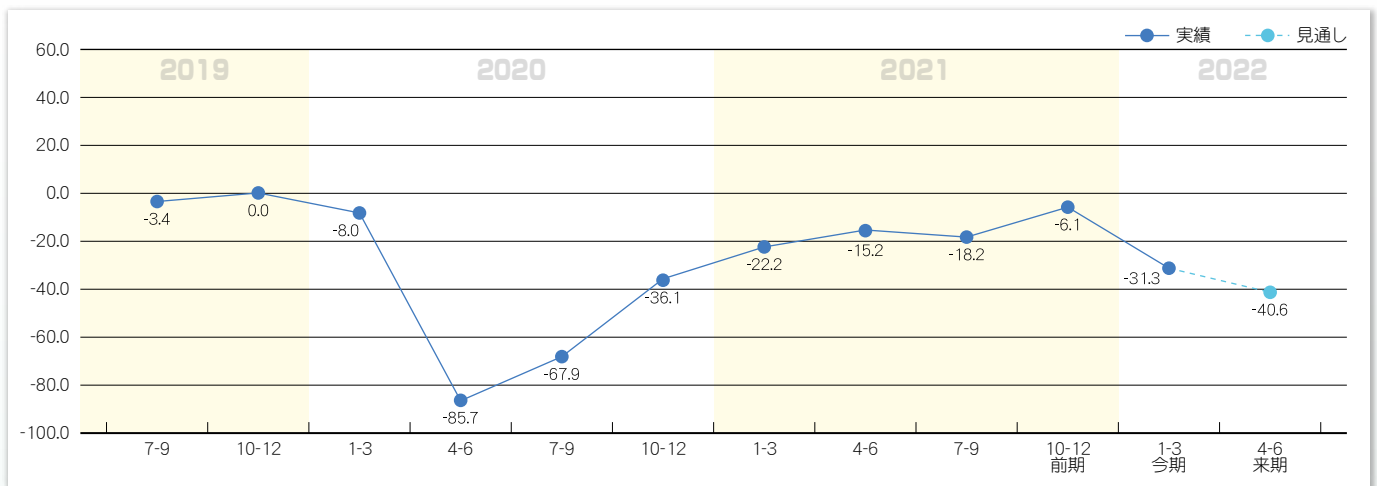
サービス業

回答数32社

今期の業況D・Iは、前期比25.2ポイント低下の▲31.3と、大幅に悪化。まん延防止等重点措置による客足の減少に加え、原材料価格高騰の影響により、売上が減少し収益を圧迫している。来期の予想業況D・Iは9.3ポイント低下の▲40.6。仕入価格高騰分の価格転嫁に対する課題の声も聞かれ、さらに悪化の見通し。

前期実績 今期実績 来期見通し

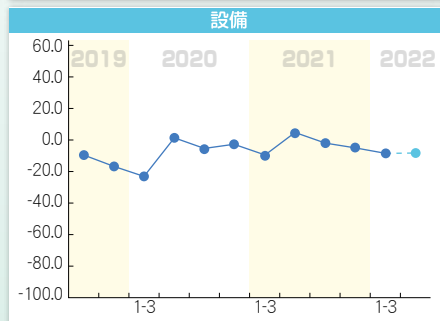
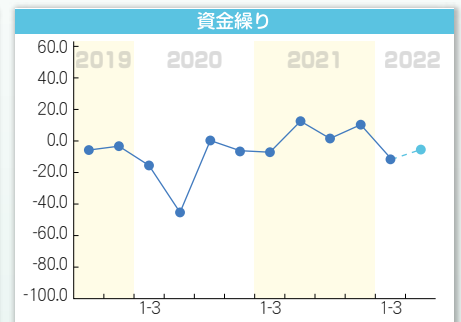
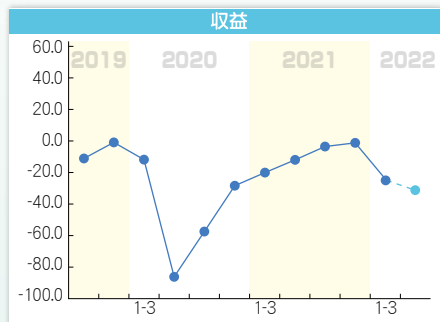
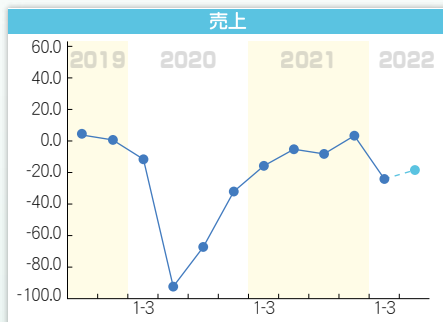
業況D・Iの推移



主要D・Iの推移

(注)設備/人手はプラスになるほど過剰、マイナスになるほど不足。

● 実績 ● 見通し



調査員のコメント



- 顧客の廃業や、経費削減による顧問料の値引き等により、売上が減少。(税理士法人)
- 飲食店への時短要請やガソリン価格高騰が収益を圧迫している。一方で市内巡回バスの増便など、明るい兆しもある。(旅客運送)
- コロナ前と比べ売上が2~3割減少のまま停滞。仕入価格高騰分の価格転嫁が課題。(理美容室)



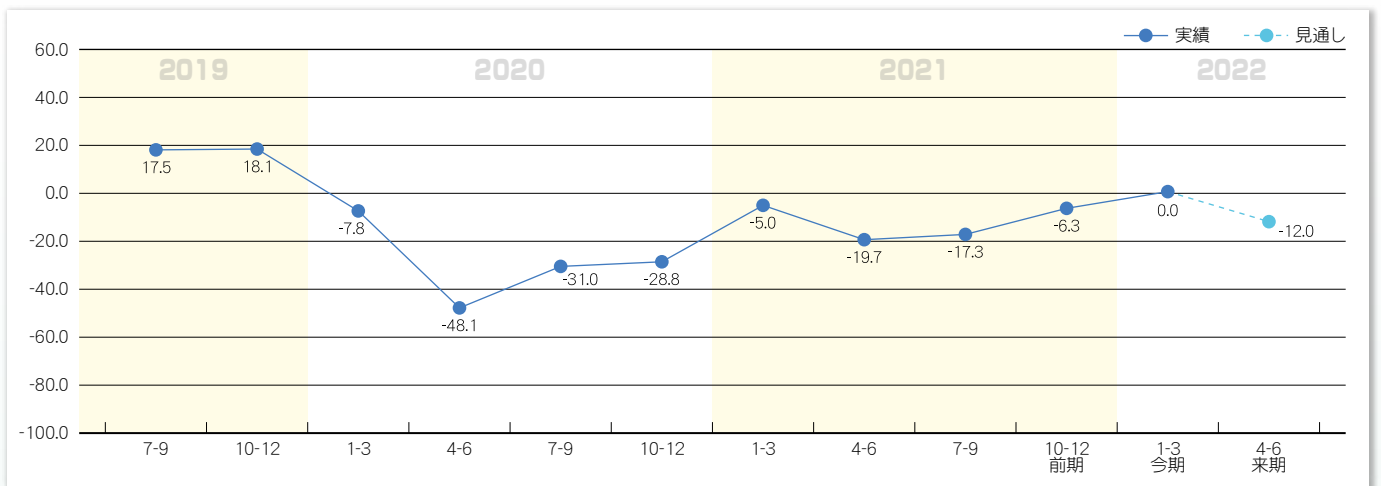
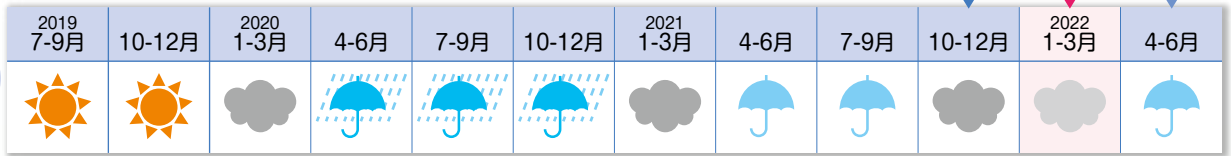
建設・不動産業

回答数75社

今期の業況D・Iは、前期比6.3ポイント上昇の0.0。受注が安定している企業が多く、3期連続で改善。来期の予想業況D・Iは12.0ポイント減少の▲12.0と、悪化の見通し。仕入価格の高騰や、ウクライナ情勢の影響を懸念する声が聞かれており、先行き不透明感が増している。

前期実績 今期実績 来期見通し

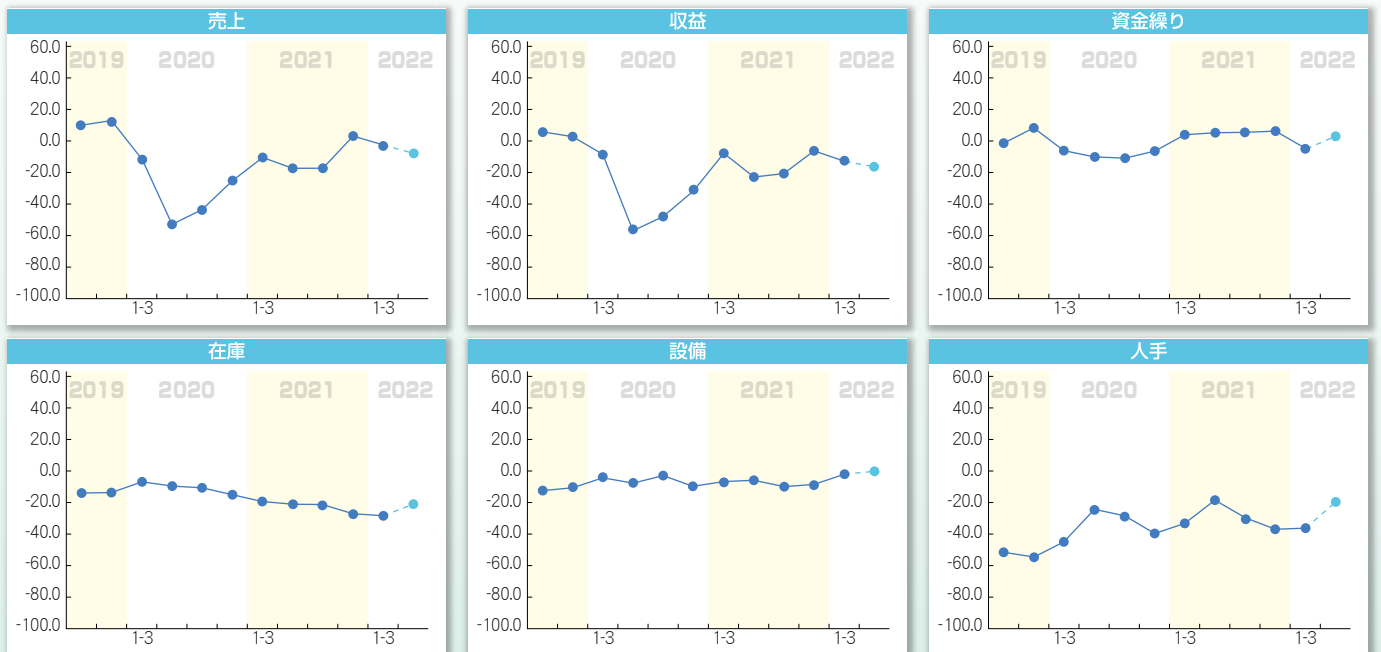
業況D・Iの推移



主要D・Iの推移

(注)在庫/設備/人手はプラスになるほど過剰、マイナスになるほど不足。

● 実績 ● 見通し



調査員のコメント



- 現在受注は順調であるが、原油・原材料価格高騰の影響が懸念され、今後の見通しは不透明。(建築土木)
- ウッドショックによる仕入価格の高騰に加え、ウクライナ情勢により、さらなる悪化が懸念される。(住宅建設)
- コロナ禍ではあるが、土地・物件の仕入れ・販売は順調であり、収入は安定している。(不動産)